

## 読書に励み、学力の基礎となる読解力と思慮深さを身に付けよう

開倫塾

塾長 林 明夫

1. 新年、明けましておめでとうございます。開倫塾塾長の林明夫です。今朝も「開倫塾の時間」をお聴きいただき、ありがとうございます。
2. この「開倫塾の時間」では、学校で学習する方だけではなく社会人も含め、どのようにしたら効果的な学習ができるかというお話を、ずっとさせていただいています。今年もどうかお聴き下さいますようお願いいたします。
3. さて、学力を身に付けるのに一番大事なことのひとつは何かというと、本をじっくりとたくさん読んで読解力を養成することです。最終的には思慮深さを身に付けることだと私は考えます。そこで今日は、本の読み方についてお話させていただきます。
4. 私の手元には、PHP ビジネス新書の「チーム・ビルディング」という本があります。この本は、1+1 が 2 以上になる強力な組織の作り方について書かれたもので、私の尊敬する友人である小林恵智さんという方が監修されています。私は、この本をお正月に読もうと思っています。
5. では、本はどのように読んだらよいかというと、できれば 3 回～ 6 回ぐらい読むのが望ましいというのが私の考えです。例えば、この「チーム・ビルディング」には「リーダーとは何か」「働くとは何か」「人間力とは何か」などについて詳しく書かれていますので、それを一語一語「うん、なるほど」、「そうか、こういうことなのか」とよくかみしめながら・理解しながら読むのが、1 回目です。
6. 2 回目は、1 回目から 1 ～ 2 週間後に「小林恵智さんはなぜ 1+1 が 2 以上になる最強組織の作り方についての本をお書きになったのか、どうしてこのところでこのことを取り上げているのか」などと書いた方の気持ちになって深く読んでみると面白いと思います。そして、3 回目はもっといいねいに読んでみます。このようにすると、1 回目よりもさらに深い理解が得られると思います。
7. 4 回目以降は、必要なところを身に付ける・定着させるために読むとよいと思います。1 回目から 3 回目のときに、大切なところには鉛筆などで線を引きながら読んでいる方も多いと思います。そのような大切なところを自分のものとして身に付けるために、4 回目以降はキーワードだけでもノートに取りながら読むとよいでしょう。つまり、著者が書いた内容について大切だと思うことをノートに取りながら読み、書きながら覚えるのです。例えば、小林さんの本には「チームとは何か」「どのような人材にチームに入ってもらうのが大事か」などがたくさん書かれています。大切だと思う語句やその意味・内容をノートに取りながら読み、それを覚えてしまう、身に付けてしまうのがよいと思います。

8. また、音読、つまり声に出して読むこともお勧めです。ただ、1冊全部を声に出して読むのは大変ですから、自分の気に入ったところだけでも声に出して、できれば少し大きな声を出して読んでみましょう。そうすると、理解がより深まり、自分のものとして身に付きます。
9. さらにお勧めなのは、「書き抜き読書ノート」を作ることです。たとえ1行でもよいので、気に入ったところ・すばらしいなと思ったところをノートに書き抜いておくのです。例えば、私は小林さんの「チーム・ビルディング」を読んでいて、「相手と自分を同時に生かすことができる力が、人間力の中では大事だ」ということばに出会い、すばらしいなと感じました。「そうか、チームのリーダーとチームのメンバーを同時に生かすことのできる力があってはじめて、人間としての力、つまり人間力は尊いのだな」と納得しましたので、さっそく「書き抜き読書ノート」に書きました。
10. 「書き抜き読書ノート」には、読んだ本1冊について1行か2行書き抜くだけでも十分です。そのノートを開くたびに、その文を目にするたびに声に出して読んでみましょう。これを一生繰り返すと、それらのことばや考え方が自分のものとなり、自分の人生そのもののようになってきます。ですから、感銘を受けたすばらしい文や文章は折に触れて読み返すと、人生の形成にも役に立つのではないかと思います。このように、学力をつけるのに一番大事なことは読書ですので、ぜひたくさん本を読んでいただきたいと思います。
11. ところで、フィンランドは世界で一番15歳時の基礎学力が身に付いている国だということでも有名です。この国の教育で最も大事にしていることも読解力です。リーディング・リテラシー、つまり読んで理解する能力を核にした学力形成を行い、学力が世界で一番高くなったと言われています。できれば、日本の子どもたちも、そして我々大人もゆっくりと本を読んで読解力、最終的には思慮深さを身に付けたいと思います。
- ところで、本の読み方には、速く読む速読と、じっくりと読む熟読の2つがあります。私は、できれば本はゆっくりゆっくり読んだほうがよいと思います。ただ、読書の中に入る新聞に関しては、じっくりと読むことが必要な場合もありますが、速く読んで最新の情報を素早く知ることが大事だと思います。
12. つまり、新聞などは速読して最新の情報を身に付ける、本は熟読して思考能力を身に付ける、このように読むものによって分けて考えるのもよいですので、ぜひ実行していただきたいと思います。
13. 話は変わりますが、放送をお聴きの皆様の中で車を運転していらっしゃる皆様は安全運転に徹して、事故を起こさないようにお願いいたします。

今年もよろしくお願いいたします。

[コメント]

学力の基礎となる読書はどのように行えばよいか。読解力だけでなく思慮深さが身に付く読書の仕方を新年にあたり考えました。

— 2013年2月9日林明夫記 —